



# 学校評価アンケートを 考察する

校長 武井 一郎

この度の台風 18 号の影響等により、被害を受けられました皆様に心からお見舞いを申し上げます。被災された皆様が一日も早く安心して暮らせませようお祈り申し上げます。

本校は亀岡台の高台にあり、辛うじて浸水を免れました。鬼怒川の堤防が決壊する前から避難所として被災された方々を受け入れることとなりました。一時 500 名を超える方々が窮屈な中で寝泊まりされました。道路は寸断され、常総線も不通、停電はしなかったものの浄水場の水没による断水が続き、9 月 10 日から 2 週間に渡り学校を再開することができませんでした。

その間、本校有志の生徒・教職員によるボランティア活動が市内各所で行われ、その様子はマスコミ等により紹介されました。また、被災した本校生徒・教職員 80 名に対して、PTA や済美同窓会の皆様からたくさんの義援金をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、例年行っている生徒・保護者による学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、報告

告します。

生徒によるアンケート（肯定的な意見の割合％）では、「あいさつや制服はきちんとしている 94％」「将来の目標が明確 60％」であるが、「家庭学習は年次＋2 時間ができている 30％」「学習目標が達成できた 34％」「朝の自学自習ができている 33％」割合は、昨年より少し増えているとはいえず、まだまだ学習面での課題が多く、学校側の働きかけに工夫が必要です。

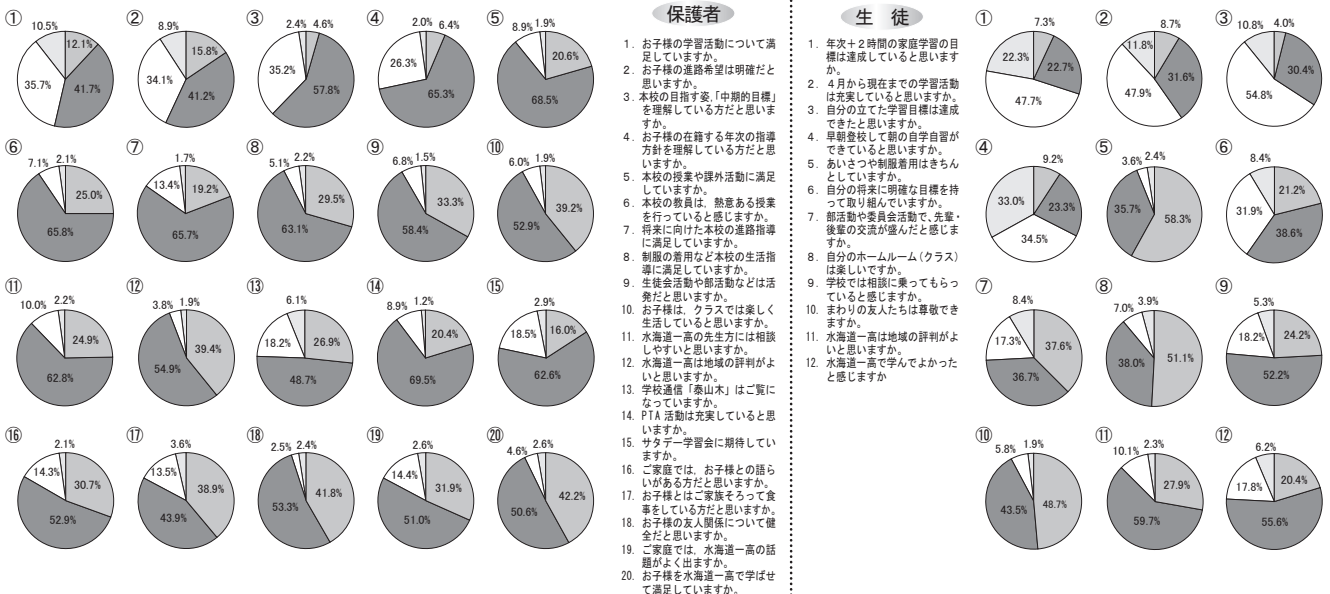
一方、「海一は評判がよい 88％」「海一でよかった 76％」と母校に誇りを持ち、「友人は尊敬できる 92％」「クラスは楽しい 89％」「先輩・後輩の交流が盛んだ 74％」「学校で相談に乗ってもらっている 76％」と感じており、学習する環境としての本校にはとても満足しています。

保護者対象のアンケートからは、「海一は評判がよい 94％」「海一でよかった 93％」「教員に相談しやすい 88％」と生徒以上に学校を信頼してくれており、「子どもと会話がある 84％」「家族そろって食事をしている 83％」「学校の話題がよくでる 83％」など保護者と生徒とのコミュニケーションが豊かで、「授業や課外活動に満足している 89％」「熱意ある授業を行っている 91％」など本校の教育活動をよく把握しており、その満足度も高くなっています。昨年から課題である生徒の学習活動や進路についての満足度は、「子どもの学習活動に満足している 54％」「子どもの進路希望は明確である 57％」など、昨年より向上したとはいえ、他の項目より低くなっています。

今後とも生徒に寄り添い、生徒の学習への取組みを強化し、進路意識を高める努力が欠かせません。

## アンケート

■ とてもそう思う ■ そう思う □ 思わない □ 全く思わない



(1)

水海道一高は今年創立 116 年。未来を築く青年の育成をめざして日々進歩し続けています。

## 中学生のための水海道一高説明会

7 月 31 日（金）、8 月 1 日（土）、8 月 18 日（火）の 3 日間行われました。

### 説明会の概要

- (1) 中学校ごとの会場で職員と在校生から説明を受けます。
- (2) 授業体験
- (3) 部活動や校内の自由見学



3 年次

## 大学入試センター試験志願票を発送して

3 年次主任 渡 邊 直 樹

大学入試センター試験に出願する生徒全員分の「志願票」を学校で取りまとめ、10 月 2 日に「無事」発送しました。例年、出願に関わる担任や係の先生は、ミスのないようにと細心の注意を払い、生徒達と内容を確認しながら準備

します。しかし今年ほど『無事に』を強く実感した年はありません。9 月 3 日に説明会を開き、志願票の下書きも終え、後は清書と受験料の振り込みと提出、の流れの最中に起きた常総市の洪水被害。改めて、被災された生徒・保護者の皆様には心より御見舞申上げます。授業がいつ再開できるのか、先がまったく見えない時期もありました。願書一式

もすべて水に浸かってしまった生徒もいました。そのような状況の中で、9 月の最終日に受験希望者全員の志願票が揃ったときには、本当に胸をなで下ろしました。3 年次生の皆さん、出願はすみしました。後は覚悟を決めて試験当日までがむしゃらに頑張るだけです。

『勝負の神様は細部に宿る』 サッカー日本代表の元監督、岡田武史氏の言葉です。「練習のランニングの時、コースを示すコーンの内側を走るような選手は、残念ながら信用できない」普段の練習から『細部』にこだわり、決して妥協をしないこと。普段のいいかげんさは、「勝負を分ける場面」でこそ露呈する（あるコラムより）

「勝負を分ける場面」をあと数ヶ月後に迎える 3 年次生の皆さん。心と身体と頭の準備は、いかがですか？ 日々の学習や生活において、どれだけ『細部』にも気を遣えるか。小さなことの積み重ねこそが、必ずや大きな成果をもたらします。そして、これからの最大の敵「あきらめそうになる自分」との勝負に打ち勝ってください。



水海道一高「いのちの教育」は、ひとりひとり個性を自覚し立志の夢を追いかける学園創造をめざして取り組んでいます。(2)

1 年次

# 第 1 年次 PTA 総会を終えて

1 年次主任 渡 辺 安 之

第 1 年次 P T A 総会は、2 日間に分割して行う変則的な実施となりましたが、多くの保護者の方々のご参加とご協力により有意義なものとなりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第 1 部「進路講演会」では、2 日間にわたり河合塾松戸校校長渡邊郁夫先生にお出でいただき「文理選択に向けて」と題してご講演をいただきました。受験を勝ち抜くためには、自分の身の周りのことは自分で行う「自立」と、保護者の方が最後まで息切れせずじっくりと見守る「持久力」が必要だとおっしゃっていました。1 年次担任団も、残りの 2 年半息切れすることなく、三位一体の協力体制をしっかりと築き、最善の努力を積み重ねていきたいと思ひます。

第 2 部「P T A 総会」では、進路や修学旅行に関する多くのご意見をいただきました。年次運営の参考にさせていただくとともに、今後もよりよい生活環境を作って行きたいと思ひます。

現在生徒達は、学校生活を通して多くの事を経験し、勉強や読書に勤しんでおります。豊富な読書量は、多くの知識と多角的な視点を与えてくれますが、実体験を通し身をもって経験することで、血となり肉となります。これからも、進んで多くの経験を積んでほしいと思ひます。

9 月に真言宗（空海）の総本山である和歌山県・高野山に行つて参りました。開創 1200 年を迎えるとあつて大変込んでおりましたが、1 年次生の健康と今後の活躍を祈願して参りました。東北・関東豪雨の爪痕がまだ残つておりますが、力を合わせてこの危機を乗り越え、輝く未来に向かつて共に邁進していきたいと思ひます。

2 年次

戦争は何を生み出すのでしょうか。私たちが修学旅行で聞いた平和ガイドさんの話から強く感じた疑問です。沖縄戦は、本土での戦力を準備するための時間稼ぎでしかなかったんだと話していたガイドさんの瞳が印象的でした。



一番最初に訪れたひめゆりの塔、記念館では戦死してしまつたひめゆり学徒さんの遺影がたくさん飾られた部屋がありました。その遺影一つ一つにその生徒さんがどういう方だったのか事細かに記されており、私たちと同年代の夢や希望を持った人たちがどうして命を奪われなければいけなかったんだらうととても虚しい気持ちになつたのを覚えています。私たちが生きている今は、望めば何でも手に入るし、食べ物にも困らないのが当たり前な時代です。

でも、戦時中を生きた人たちにはその「当たり前」を想像することすらできなかったのではないのでしょうか。今日の食べるものがない、明日殺されてしまうかもしれないという不安と戦いながら毎日を過ごすなんて、どれほど怖く苦しかったことでしょうか。その気持ちを推し量ることしかできない自分の無力さを痛感しました。

次に訪れた平和祈念資料館では、地形が変わるほどの激しい艦砲射撃が行われたため、「鉄の暴風」と呼ばれているアメリカ軍の爆撃について詳しい説明が記載されている部屋を見学しました。正直あまりの衝撃に言葉が出ませんでした。小学生や中学生の頃に少し社会の授業で触れていた程度だったので、被害の大きさを知り愕然としました。雨のように爆弾が降つてきた、なんてその場面を想像するだけで苦しくなるようなことが 70 年前の日本で実際に起こつていたという事実を信じたくありませんでした。



私は以前広島に住んでいたことがあるので、原爆ドームを見たこともあるし、広島平和祈念資料館も行ったことがあります。戦争について少しは知っているつもりでいました。しかし、私が知つていた「戦争」はほんの一部でしかなかったのです。戦争をしたことによって、確かに日本は民主主義国家となり、平和を手に入れたのかもしれませんが、その代償として失つたものが大きすぎる気がします。たくさんの罪のない人たちの命を奪い、生き残つた人たちの心に死ぬまで消えることのない傷跡を作つた戦争の罪はとても大きいです。今回の修学旅行で、戦争は絶対に存在してはいけないものだと再確認することができました。また、今現在もたくさんの国で戦争は起こつています。その争い全てが終結し、平和が訪れることを強く願うばかりです。 (2-2 北 彩乃)



家庭教育部  
より

## 第 65 回全国高等学校 PTA 連合大会に参加して

水海道第一高等学校 PTA 会長 吉田 孝

「未来圏からの風をつかめ」のメインスローガンのもと、8月20日～21日に岩手県盛岡の地で開催されました、第65回全国高等学校PTA連合大会に、田村仁志幹事、武井校長、吉原先生と参加して来ました。<http://taikai.iwateken-koupren.org/>

下村文部科学大臣の挨拶や表彰式などの開会式に引き続き、「夢高くして足地にあり The sky is the limit !」の演題で、地元盛岡出身でリニアモーターカーなどの超伝導の科学者で、現芝浦工業大学の学長の村上雅人氏の基調講演を拝聴しました。講演はたいへん興味深く特に視点を変える事の大切さに気づかされました。

太陽の周りを地球が回る地動説が常識ですが、宇宙全体に視点を変えれば、太陽自体が宇宙空間を時速7万 Km で移動していて地球はその周りを螺旋状に動いている・・・はっとしました。

当日、疑問に思っていた演題の「The sky is the limit !」の意味を理解できたのは、視点を変えた数日後でした……。



特活部  
より

### 生徒会役員が決まりました。

生徒会長	染谷 紗矢 (2-2)
副会長	戸塚 康平 (2-1)
	小林 庄太 (1-7)
書記	浅沼 詩文 (2-1)
	鷹巢 大樹 (2-7)
	上原 優香 (1-2)
	金田 美碧 (1-4)
会計	堤 猛流 (2-5)
	藤原 彩楓 (1-5)



台風18号からもう2ヶ月が過ぎようとしている。自覚していなかった動揺が伝わったのか、息子(4歳)の粗相が数日続いた。当時は「なぜ今更? どうしたの?」としか思えなかったが……。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。霜月。暦の上ではもう冬だ。担当するもう1つの大事な仕事が大詰めを迎える。慣れてはいるが、細心の注意を払って間違いないよう、しっかり行わなければ。3年次生は高校生活最後の定期考査を受けている。間もなく特編授業がスタートする。最後の最後まで粘り強く受験勉強に取り組みでもらいたい。

### 編集後記

## 行事予定 (11・12月)

### 11月

- 9日(月) 定期考査Ⅳ (3年次, ~ / 12)
- 10日(火) 2年次 PTA 総会
- 13日(金) 進研・駿台マーク模試 (3年次)
- 16日(月) 特編授業Ⅰ期開始 (3年次)
- 17日(火) ①②③+K
- 24日(火) 定期考査Ⅳ (1・2年次, ~ / 27)
- 29日(日) 全統センタープレ (3年次)
- 30日(月) 面談週間Ⅳ (~ 12 / 4)  
全統センタープレ (3年次)

### 12月

- 2日(水) ①②③+K
- 5日(土) GTEC (1・2年次)
- 7日(月) K+木④⑤⑥
- 8日(火) 小論文ガイダンス (1・2年次)
- 10日(木) K+④⑤⑥
- 11日(金) 月曜日授業
- 15日(火) 小論文模試 (1・2年次)
- 22日(火) 午前火①②③④  
午後大掃除・奉仕美化活動・全校集会
- 24日(木) 保護者面談
- 25日(金) 保護者面談

◀ 9・13 災害ボランティアの様子